

資料編

分野名
7本の柱

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
24本の施策

		Strength 強み	Weakness 弱み	Opportunity 機会	Threat 脅威
SWOT分析 シート		内部環境			
		強み(S)		弱み(W)	
		① 強みと弱みが明らかにされている部分 現状と課題が明らかにされている部分			
外部環境	機会(O) ニーズの増大 役割の増大	② 現状と課題が明らかにされている部分		強みで機会を生かすための取組	弱みを強化して機会を逃さないための取組
				④ 戸田市の未来像が明らかにされている部分	④ 戸田市の未来像が明らかにされている部分
	脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小			強みで脅威を克服するための取組	弱みを強化して最悪の事態を招かないための取組
				④ 戸田市の未来像が明らかにされている部分	④ 戸田市の未来像が明らかにされている部分
現状の裏づけとなる資料	③ 現状の裏付けとなる資料				

分野名
保健・福祉・医療①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①安心できる子育て環境づくり ②生き生きとした長寿社会づくり ③ノーマライゼーションの社会づくり ④幸せを支える健康づくり ⑤明るく暮らせる地域社会づくり

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

SWOT分析シート		内部環境		
		強み(S)	弱み(W)	
外部環境	機会(O)の増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世帯が多く、共働きが増加している(各手当、医療費補助等の受給対象者の増加) (育児不能又は育児不安を抱える世帯の増加) (子どもの安全な遊び場に対するニーズの増加) 団塊世代ボランティアの活用が期待できる 安心安全な居場所として学校施設の活用が目ざされている 近年の都市化及び核家族化の進行により、子供だけで安全に遊べる場所が減り、大人のサポートも期待できない環境にあることから、児童センターと同種の施設の増設を希望する声がある 	<ul style="list-style-type: none"> こども青少年部の設置により一貫性のとれた事業の展開が可能(乳幼児から成人式まで) (学童保育事業と放課後子ども教室推進事業の連携) 埼玉県地域子育て応援タウンの認定要件である地域子育て支援拠点数をクリアしている ケースワーカー2名、家庭児童相談員6名の体制の充実 公立・私立保育園数のバランスが良い 一時保育実施園数が多い 病児保育が充実している 平均年齢が県内一若い 合計特殊出生率が全国平均より高い 児童センターは施設の規模が大きいことから相当の収容人数が可能であり、科学展示室や工作室、音楽ホールなど体験型の行事が充実している 児童センターは、行事の企画が優れているため年々利用者数が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> 場所の確保、学童保育指導員や子ども教室スタッフの確保が難しい 地域コミュニティの形成がされづらい 家庭児童相談員を多数擁することから人件費の増大傾向がある こどもの国の施設老朽化 幼稚園の情報が乏しく、市民へ情報提供ができていない ボランティア活動への無関心層の増加 手当等の支給対象世帯が増加傾向にあるため、法律基準への上乘せまたは現行制度の対象拡大が容易にはできない 児童センターは施設が1箇所、立地が市の中心部からやや外れていることから市内全域の児童が同じように利用しやすいとはいえない
	脅威(T)の減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 子育て世代が入居する割合の高いマンション建設により、待機児童の増加(子育て環境が悪いイメージの定着) 潜在的なハイリスク家庭の実態把握が困難 少子高齢化による財政縮減 保育ニーズの多様化 国や県からの補助金等の削減傾向 少子化の進行により、将来的には児童センターの利用者数の減少が予測される 児童センターは、高齢者の利用に資する用途機能と複合させることも考えられる 	<ul style="list-style-type: none"> 保育需要への対応のため、既存保育園の建て替えや新設保育園の建設 一致規模以上のマンション建設時に保育施設開設を協議 若い世代の転入が当分続くであろうことから、子育て支援の充実したまちとのイメージの確立で、ほかの分野においても活気あるまちづくりの施策が展開できる 手当等の対象者が、均しく事業を利用できるようPRIに努めるとともに、法定給付等以外に事業の普及を図り、自立を促進する 子育て家族のための講座の実施 学童保育事業と放課後子ども教室推進事業の連携を強化しながら、それぞれの特色を生かした事業の充実を図る 相談員が、保健事業及び各種子育て支援事業に参画し、情報収集を行い、また、関係機関との連携を密にし、問題ケースの早期解決を図る 児童センターの行事の一部を学校区等の地域分けて実施する方法を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 保育所整備の市単独補助を活用し、民営による保育所新設を誘致する 幼稚園情報の収集に努め、積極的に提供する 地域コミュニティ施策を所管する部署と連携し、子育てボランティアやサークル活動の推奨及びコミュニティ意識の醸成を積極的に行うことで、市民による自主的な活動を支援する 手当等については、所得制限等の一定条件を付すことで、経済的支援の必要性が高い層に限定し、既存制度の拡充を検討する 放課後子ども教室のスタッフ確保について、各種団体に協力要請 放課後児童の居場所づくりを行政の重要課題と位置づけ、積極的な取り組みを図る。 要保護児童対策は児童福祉行政の基幹業務であることから、適正な人員確保のために、他の事業からの予算配分傾斜を検討する。 こどもの国の地理的な利点や施設の特徴を生かした機能の充実を図る 中高生ボランティアの養成や社会参画・貢献活動の機会を提供するとともに自主的運営をサポートする 遠隔地から児童センターへ来館する児童を送迎するため、シャトルバスの運行を検討する
	現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 戸田市人口統計 埼玉県人口動態 埼玉県子育て応援タウン認定要件実施状況 戸田市社会福祉協議会新地域福祉活動計画 時系列による各種手当及び医療費支給事業実施状況 県内市町村各種事業実施状況 時系列による要保護児童対策相談件数の推移 埼玉県市区町村別平均年齢 埼玉県の合計特殊出生率 学校児童数の推移 	<ul style="list-style-type: none"> 学童保育入室児童数の推移 放課後子ども教室の実施状況 各小学校の学校要覧 青少年団体加盟団体の会員数 青少年団体加盟団体における役員在籍年数 青少年教育各種イベント参加者数 時系列による待機児童数 児童センター要覧(年度版) 	<ul style="list-style-type: none"> 弱みを強化して機会を逃さないための取組 弱みを強化して最悪の事態を招かないための取組 市単独補助の見直しなど、戸田市独自の子育て支援策に取り組む 幼稚園との連携を密にする 市の施設を活用する以外に住民自ら自治(町会)会館や空き店舗等を利用して地域子育て支援拠点を創設するよう社会福祉協議会との連携を強化する 地域における要保護児童への対応力の強化を図るため関係機関の対応力の向上、通告など市民の協力が得られるよう啓発事業等を充実させる 学校やスタッフとの連携を密にし、子どもに無理のない事業の構築に努める 親に対する情報提供を積極的に行う。地域・家庭・学校が連携した取り組みを目指す 中学生や高校生が利用しやすくなるような行事を、児童センターにて実施することや彼らの活動場所の提供を検討する

分野名
保健・福祉・医療②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①安心できる子育て環境づくり ②生き生きとした長寿社会づくり ③ノーマライゼーションの社会づくり ④幸せを支える健康づくり ⑤明るく暮らせる地域社会づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
				<ul style="list-style-type: none"> 医療保健センター内に介護老人保健施設があり協力がしやすい 地域包括支援センター・西老人介護支援センター・訪問看護ステーションと協働である 高齢者福祉サービスが充実していると共に敬老会や老人スポーツ大会を市で実施している 元気高齢者対策として各福祉センターでふれあい事業を実施しているほか、老人クラブやシルバー人材センターの育成を行っている。 他市町村と比し高齢化率が低い(H20. 4. 1現在 12. 88%) 		<ul style="list-style-type: none"> 介護老人保健施設の立地場所が市の中心でなく西部である 介護老人保健施設は公設公営のため職員自身の経営意識が弱い 近隣の生活状況に無関心になりつつあり、近隣相互の助け合いが期待できない 職員不足 	
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の増加(ニーズが高まる) 	強みで機会を生かすための取組		弱みを強化して機会を逃さないための取組		
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の増加(各種扶助費等の増加) 介護報酬の改定によるサービス収入の減少 民間経営の介護老人保健施設が多く新設され経営競争 	強みで脅威を克服するための取組		弱みを強化して最悪の事態を招かないための取組		
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 老健さきたまだより(埼玉県老人保健施設協会発行) 埼玉県のホームページ: 介護サービス情報の公表・高齢者介護施設待機者等情報提供 (社)埼玉県介護老人保健施設協会ホームページ: 施設紹介 (社)全国老人保健施設協会ホームページ: 施設紹介 厚生労働省通達H17/10.H18/4の介護報酬改定(介護給付費の減算) 平成15年4月1日付け 高齢化率10. 5% 後期高齢化率3. 5% 平成20年4月1日付け 高齢化率12. 9% 後期高齢化率4. 6% 平成18年度 老人クラブ会員数 2, 412人 平成19年度 老人クラブ会員数 2, 375人 					

分野名
保健・福祉・医療③

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①安心できる子育て環境づくり ②生き生きとした長寿社会づくり ③ノーマライゼーションの社会づくり ④幸せを支える健康づくり ⑤明るく暮らせる地域社会づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威		
<p style="text-align: center;">SWOT分析 シート</p>				内部環境				
				強み(S)		弱み(W)		
				<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所が市内に3ヶ所ある。 障害者就労支援センターが、障害者福祉作業所に併設されている 公立の福祉作業所が3カ所ある 在宅生活を支えるサービスが充実している 		<ul style="list-style-type: none"> 障害者福祉施設が少ない 障害者の就労場所が少ない 障害福祉サービスを実施している社会福祉法人が少ない 		
				強みで機会を生かすための取組		弱みを強化して機会を逃さないための取組		
外部環境		機会(O) ニーズの増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 障害者自立支援法が平成18年4月より施行され、障害者施策の一本化、利用者の利便性の向上、就労支援の強化、支給決定のプロセスの明確化、安定的な財源の確保を図ることとなった 		<ul style="list-style-type: none"> 相談事業所は相互の連携を図り、障害者へ適切な支援を行う JR東日本が、知的障害者を雇用する新会社を新設に設立するので、戸田の知的障害者が雇用されるよう働きかけを行う 		<ul style="list-style-type: none"> 障害の程度に応じた施設を市内に整備する 就労支援センターを活用し、障害者の就労支援を行う 社会福祉法人への財政的支援を行う 健康福祉の社にショートステイ施設や、デイサービスセンターを整備する 健康福祉の社にケアホームを開設する 	
		脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 障害者数が年々増加傾向である 障害者自立支援法が平成18年4月より施行され、利用者の負担は原則1割となった 		<ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所の積極的な活用を図り、障害者が地域で安心して生活できるようする 障害者自立支援法に基づく法定施設を整備する 		<ul style="list-style-type: none"> 障害者を雇用してくれる会社等を開拓し、障害者の就労に結び付けていく 障害福祉計画(後期分)の策定において、現状を適切に把握し、計画的な施設整備等を検討していく 	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 障害者数 障害者雇用率 障害者福祉作業所等利用者数 						

分野名
保健・福祉・医療④

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①安心できる子育て環境づくり ②生き生きとした長寿社会づくり ③ノーマライゼーションの社会づくり ④幸せを支える健康づくり ⑤明るく暮らせる地域社会づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市独自の保健事業が多い 保健・医療の専門職が揃っている 保健施設と医療施設が併設されている 保健情報システムの導入により、保健部門のIT化が進んでいる 若い世代の多い市である 公立であるため市民にとって安心、安全、安定、安価 常勤の医療従事者が確保されている 救急医療体制が整備されている 				<ul style="list-style-type: none"> 建物が老朽化し、施設が手狭である 医療保健センターの立地場所が市の中心でなく西部である 自主財源の限界性 安易な救急医療利用者が多い 	
外部環境		機 会 (O) 役割の増大		強みで機会を生かすための取組		弱みを強化して機会を逃さないための取組	
		<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりに対する関心が高まっている 国の生活習慣予防策や子育て支援策など、保健分野の施策への期待が高まっている 子育てにかかわる事業のニーズが高い 高齢化の進展 医学の進歩により、在宅治療が可能となってきた 救急医療に対する市民の要求の高まり 		<ul style="list-style-type: none"> 積極的に事業をアピールする(健康カレンダー・広報紙面の充実・ふれあい戸田などの映像の活用など) 若い世代への健康づくり事業への参加を促す(戸田市は、他市と比べて18歳以上という若者の健診の機会もある) 戸田市事業の独自性(他市にはない市民サービス)を、市民に対しても積極的に知らせていく 健診や予防接種などの外来事業拡大強化 入院施設の稼働率の促進 		<ul style="list-style-type: none"> 保健部門の新しい施設を建設・移転することで市の中心で時代に応じた事業を行う 保健部門の移設に伴い、医療センターの建て替えを行い、美笹地域の医療の中核となる 市独自の地域医療体制整備支援が可能 訪問診療の充実 広報やHP等で医療及びジェネリック薬品等の情報を提供し、医療保健センターの存在感を高め周知徹底する 広報や県のインホームションなどを活用し、救急医療の初期の処置方法を理解し本来の救急医療制度の理解を求める 	
		脅 威 (T) 役割の縮小		強みで脅威を克服するための取組		弱みを強化して最悪の事態を招かないための取組	
		<ul style="list-style-type: none"> 従来の行政事業への民間の参入が増大している 競合する医療機関が多い 医療行政の混乱、将来が不透明 医療費の増大 		<ul style="list-style-type: none"> 保健情報システムで得たデータを様々な角度から分析することにより、的確に市民意識の動向を把握する 専門職が多いという強みを生かして、民間とは異なる特徴のある事業を実施していく 大病院と違い、アットホームな医療を行う 迅速な検査、診断、治療で、患者の満足度を獲得するための診療体制の強化を図る 常勤薬剤師3人の配備を生かした院内処方を実施する 		<ul style="list-style-type: none"> 財源の制限のもと、行政で取り組むべき事業を厳選し、民間で出来る事業については委託する 精神保健の研修や会議にも計画的に受講・参加して、福祉部門との連携を強化する 医療の専門家などの意見を聞き、医療経営の視点を変え、職員の経営意識を向上させる 	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市第3次総合振興計画 戸田市人口統計 戸田市市民満足度調査 戸田市立医療保健センター年報 健康カレンダー 埼玉県地域保健医療計画第5次計画 					

分野名
保健・福祉・医療⑤

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①安心できる子育て環境づくり ②生き生きとした長寿社会づくり ③ノーマライゼーションの社会づくり ④幸せを支える健康づくり ⑤明るく暮らせる地域社会づくり

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

SWOT分析シート		内部環境	
		強み(S)	弱み(W)
		<ul style="list-style-type: none"> 市内4地域に、高齢者などが集える福祉センターがある 他市町村に先駆け、戸田市地域福祉計画をH15年に策定 地域福祉計画策定過程での市民への働きかけにより、ボランティアグループが着実に増加している 平均年齢が県下一若いことによる被保険者1人当たりの診療費・受診率の低さ 市民に対し、身近な年金相談窓口としての信頼と実績を有している 平成23年度に高齢者や子育て、障害者、DV、健康等の相談を業務の一つとした福祉保健施設を開設する予定 	<ul style="list-style-type: none"> 県下最下位クラスの保険税徴収率 福祉センターの施設の老朽化が進んでいる 若年者の割合に比べて高い1日当たり、1件当たりの診療費(ほぼ県平均) 福祉センターが、必ずしも地域福祉の活動拠点となっていない 法定受託事務であり、かつ公的年金記録を保有していない 本庁の各部署が持っている福祉情報システムの共有について、個人情報保護の問題があり、総合的な提供は困難である
外部環境	機会(O)の増大	<ul style="list-style-type: none"> 制度改正に伴う保健事業の充実により主体的に医療費適正化を図る機会が到来 少子高齢化により、従来の給付行政からの転換について理解が進み始めている 年金記録問題に伴い、社会保険庁から「ねんきん特別便」が発送され、窓口・電話での相談が増大している 健康や福祉に関する相談は、相談者個人のライフサイクルに合わせて、変化していく 	<p>強みで機会を生かすための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 各福祉センターでは「いいの部屋ふれあい事業」として、高齢者向けの体操等を行い、健康増進と参加者の交流を図る 社会福祉協議会や民生委員との連携による、地域福祉活動強化 若い世代のうちから保健教育を徹底し、将来の医療費の増大を抑えていく 「ねんきん特別便」専用相談窓口を開設するなど、身近な相談窓口としての態勢を整備する 本庁以外の場所で乳幼児から高齢者まで、福祉や健康の相談をトータルでできる場所が確保される
	脅威(T)の減少	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティの崩壊から納税意識に関するモラルハザード 医療制度改革に伴い現制度への不安感不信感の増大 一人暮らし高齢者や高齢者夫妻の増加 年金制度への誤った理解に伴い、年金未加入者及び保険料未納者が増加している 具体的な相談に対する適切な回答がされるか 	<p>弱みを強化して機会を逃さないための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活弱者、災害時の一時的避難所としての自立支援ホームで、弱者救済を図る 災害時の要援護者の支援として、要援護者の把握をする ジェネリック医薬品の普及・啓発等の施策を通して医療費の削減を図る 保険税徴収促進の補完として、短期証・資格証の計画的な運用を図る 管轄の社会保険事務所との連携協力関係を強化し、速やかな対応に努める 個人情報をお互い提供しあって相談に応じることが出来る
現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 福祉センター利用者数(平成19年度実績 4館合計 315,460名) 民生委員心配ごと相談利用者数(平成19年度 40件) 社会福祉協議会登録ボランティア数(平成19年度 グループ数41 個人195名) 地域福祉活動助成金の交付件数(平成19年度実績 3件 1,012,776円) 民生委員の増加(定員 157名) 被保険者一人当たりの年間医療費 相談受付件数(内部統計資料) 		

分野名
学校教育・生涯学習と文化①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①未来を担う個性ある人づくり ②自ら学び、楽しめるまちづくり ③歴史と文化の薫るまちづくり

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

SWOT分析シート		内部環境	
		強み(S)	弱み(W)
		<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒を取り巻く環境に対する住民の意識が高い 文部科学省、県教委から特別支援教育モデル事業の委嘱を受けている 小中学校全校へのエアコン配備・冷水機の設定 小学校における単独校給食調理上の整備が進み、現在小学校5校において自校給食を実施している 学習意欲の向上を図る取組「わくわくティーチャー、生き生きティーチャー」の配置 「わかる・のぼす100時間スペシャル授業」の実施 戸田市数学・国語コンテストの実施 中学校学校選択制の実施 2学期制・夏季休業期間短縮による授業時数の確保 ALTIによる英語活動の実施 就学・教育相談事業(教育心理専門員・教育相談指導員・日本語指導員の配置) 教育振興計画に基づく事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 新旧住民相互の協力体制が整備されていない 特別支援学級の設置率が県下で非常に低い 中学校の特別支援学級に情緒学級がない ほとんどの校舎が築30年以上、給食センターが38年経過し老朽化 児童増による教室不足 学校敷地への不審者侵入の防御策 校舎の耐震補強工事未完了がある 建築基準法改正による校舎増築の課題増大 子どもたちの食物アレルギー対応に限界がある 体力の低下 不登校児童生徒数の増加 本事業にかけられる予算が十分ではない 新旧住民相互の協力体制が整備されていない 啓発活動が不足している
外部環境	機会(O)の増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育法が改正され、発達障害を含めた一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育が求められている 教育行政に対する意識の向上 子どもたちの家庭における食生活の変化 核家族化や共働き家庭の増加による食生活の変化からくる栄養バランスの偏り アレルギーの子どもたちの増加 国の教育振興計画策定 学習指導要領の改訂 県の教育振興計画策定作業中 国際理解教育特区は全国展開されたことから特区からはずれた 学校を応援したり協力したりするボランティアの存在がある 地域住民の参画機会が確立されている 地域住民にとって、参画の機会が明確に示されるので協力しやすくなる 	<ul style="list-style-type: none"> 弱みを強化して機会を逃さないための政策 戸田市特別支援教育モデル事業におけるネットワークの構築 戸田市特別支援教育推進委員会での特別支援教育充実のための施策の提言(特別支援学級の増級・通級指導教室(難聴言語情緒)の増室等) 特別支援教育に係る職員研修の充実(発達障害巡回相談の活用) 小中学校維持保全改修計画により校舎等の長寿命化 有人警備、機械警備、防犯カメラ設置 小中学校維持保全改修計画による予算平準化 調理士に対するドライ運用の意識を高める 食物アレルギーに対し成分表など公表している 新給食センター建設(平成23年度稼働) 体育科の指導法研修会を充実させ、体育授業の指導力を図る 三つの達成目標を計画的・継続的に進める 教育センターと各学校の相談室との連携を強化する 早期発見・早期対応を図るため、教育センターと学校との報告・連絡・相談を徹底する 現在実践している活動の充実を進めることで、地域の理解を得る
	脅威(T)の減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級や通級指導教室に入級しても課題が解決されないというイメージの定着がある 保護者、地域の特別支援教育の必要性や重要性及び特別に支援を要する児童生徒に対する理解が足りない 地球温暖化、台風、地震等自然災害 輸入食材料格の高騰、燃料費の高騰 国内産加工食品の不安、価格高騰 学力・体力低下が問題視されている 家庭教育の低下が言われている いじめ、自殺の社会問題化 学校と地域とを結びつけるコーディネーター役がいらない 地域住民相互の協力体制が希薄である 推進委員を引き受け人がいない 	<ul style="list-style-type: none"> 強みで脅威を克服するための政策 彩の国教育の日における公開事業 日常的な授業参観の実施 支援籍学習や交流教育の充実 相談支援ファイルの活用 献立に変化をつけ内容を工夫し栄養バランスを確保 各種事業の成果・評価を実施し、改善策には具体的な数値目標を立て、具現化に向け取り組んでいく 教育センターの相談室を起点に、学校・保護者との連携を積極的に進め、子どもの変化をいち早くキャッチする PTA組織、学校評議員を活かしながら応援団組織を強化する コーディネーターを複数にし、協力体制を強化する
現状の裏づけ資料	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育法、学校教育法施行規則、学校教育法、学習指導要領 平成20年度戸田市特別支援教育モデル事業実施要項 戸田市特別支援教育推進委員会設置要項 よりよい就学支援を目指して(戸田市) 平成19年度特別支援学級在籍児童生徒数 平成19年度就学支援委員会答申 平成19年度難聴言語通級指導教室入級指導委員会答申 平成19年度情緒通級指導教室入級指導委員会答申 埼玉県教育行政重点施策 埼玉県指導の重点・努力点 	<ul style="list-style-type: none"> 戸田市指導の重点・主な施策 戸田市の教育行政指針 	

分野名
学校教育・生涯学習と文化②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①未来を担う個性ある人づくり ②自ら学び、楽しめるまちづくり ③歴史と文化の薫るまちづくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 学校施設開放が進み、スポーツ活動が盛んである 平均年齢が若い 市民のスポーツ教室への参加が多い 道満グリーンパーク等の屋外施設が充実している 				<ul style="list-style-type: none"> 道満グリーンパークへのアクセスが不便である 指導者の不足 公民館等の施設、設備が古い 社会教育主事等の専門職が少ない 	
外部環境	機会(O) ニーズの増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 健康意識が高まり、体を動かすことの重要性が増してきている 元気な高齢者が増えてきている 市民の活動内容が多様化してきている 団塊の世代が定年を迎え、学習ニーズが増えることが予想される 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策		<ul style="list-style-type: none"> DVDプレーヤー、パソコンプロジェクター等視聴覚機器等の整備 社会教育主事等専門職の養成 文化協会加盟の団体や会員が、市展や音楽祭でも活動しており、情報提供により更に活性化を図る 総合型地域スポーツクラブを世代間交流の拠点に 道満グリーンパークでイベント等を開催し、多くの市民がその良さを理解することで利用促進を図る 公共施設の再整備ではスポーツ施設を検討する 指導者養成講習会で指導者を育成する
	脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 伝統文化の衰退 高齢化社会の進行 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策		<ul style="list-style-type: none"> 講座関連の施設、設備の重点整備 社会教育主事講習会等への派遣 元気な高齢者の経験、技術を生かしスポーツクラブ等の指導者として積極的に活用する 伝統文化こども教室(茶道)を開催し、世代間交流を実践する
現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 戸田市人口ピラミッド 公民館講座参加者アンケート スポーツ教室、講座利用数 						

分野名
学校教育・生涯学習と文化③

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①未来を担う個性ある人づくり ②自ら学び、楽しめるまちづくり ③歴史と文化の薫るまちづくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1>SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 市民が質の高い芸術文化に触れる機会に恵まれている 文化会館の運営を(財)文化体育事業団が行い地域文化の振興に貢献している 		<ul style="list-style-type: none"> 文化協会加盟会員の減少 文化会館の老朽化 			
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 労働時間の短縮や学校週休5日制の実施により市民の自由時間は増大している 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策		
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動が多種、多様化している 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策		
		<ul style="list-style-type: none"> 市民の芸術文化を行う場や発表の場を充実 指導者の育成や芸術文化団体の育成 市民の文化活動の支援を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 文化会館の維持管理を行う 指導者養成講習会で指導者を育成する 			
		<ul style="list-style-type: none"> 文化会館を効果的に活用し市民文化の向上を図る 音楽祭実行委員会は、ボランティア活動が活発で、他のイベント等に積極的に参加し、文化協会加盟団体活動の衰退をカバーしている 		<ul style="list-style-type: none"> 文化会館を積極的に改修を行い、市民の利便性を追及する 			
現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 文化会館施設利用状況 18年度189,619人(耐震工事あり) 19年度225,122人 						

分野名
環境と市民生活①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①地球と共に生きる社会づくり ②安全・安心なまちづくり

		Strength 強み	Weakness 弱み	Opportunity 機会	Threat 脅威
SWOT分析シート		内部環境			
		強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 環境美化活動に市民全体で取り組んでいる(環境フェア、キャンドルナイト等) 屋上緑化等で全国から視察がきている サステナブル都市全国第3位(強い財政力と環境行政) ゴミのリサイクル率が高い 盛んなNPO、市民活動(市民主導のまち構築の可能性) 	<ul style="list-style-type: none"> 人工緑地は豊富だが、少ない自然環境 不法投棄が多い レジ袋削減運動の取組があまり行われていない 可燃ごみの排出量が多い 地域コミュニティの構築が困難 犯罪発生率が県内ワースト4位(H19年) 		
外部環境	機 会 (O) 役 割 の 増 大	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の環境問題への意識の高まり 国際的に地球温暖化防止意識の高まり 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策
	脅 威 (T) 役 割 の 縮 小	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会の進行(働き手の減少) 迫りくる地球温暖化の影響(生活への実被害) 人口増加による、ごみの増加や収集効率の低下 閉鎖的な圈いのある外環自動車道でのマナーの低下(たばこ・ごみのポイ捨て) 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策
現 状 の 裏 づ け と な る 資 料	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電システム設置件数 高効率給湯器設置件数 エコライフDAY参加率 公害苦情件数 環境出前講座件数 市民1人1日あたりごみ排出量 市民満足度調査結果 日本経済新聞社「サステナブル都市調査」 ゴミ資源率 		<ul style="list-style-type: none"> 市内3駅利用率 コミュニティバス利用率 市内法人事業者数 NPO法人数 課税収入調定 防災訓練市民参加率 友好都市交流事業参加者数 市民1人1日あたりごみ排出量 環境クリーン室への視察件数 		<ul style="list-style-type: none"> 県内犯罪発生率 市内失業者率 市ホームページアクセス数 国、県から権限移譲された事業数 不法投棄件数 大型マンション建設件数

分野名
環境と市民生活②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①地球と共に生きる社会づくり ②安全・安心なまちづくり

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

<h2 style="text-align: center;">SWOT分析シート</h2>		内部環境		
		強み(S)	弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 警察との連携が良好であるとともに、防犯、交通でO.Bの採用を実施している 自主防犯(地域含む)ボランティア意識が醸成されつつある 自主防災組織率が100%である 都心に近く公共交通網が充実している 消費生活相談等の市の窓口が充実している 交通災害、火災共済制度の充実 地下式耐震性貯水槽、非常災害用井戸等防災設備及び防災行政無線機器等が整備され設備が充実している 大規模災害時における相互応援、相互利用等に関する協定書が締結されている 全ての消防車(6台)にAEDを積載し、運用を開始している 火災等の未然防止対策として、違反対象物の是正指導や住宅防火対策指導を行っている 平成15年2月1日に「消防緊急通信指令システム」が設置され、自動的に出動指令が出せるようになる 防犯ポータルサイト、ピースガードメールの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪発生率県内ワースト4位 住みよさランキング安全なまち部門全国758位 災害対策本部となる市庁舎は耐震性が低い 荒川の破堤時には、市内全域が浸水する 防災に関しての「自助・共助」の意識が低い 地域コミュニティの希薄化 人口1万人当たりの救急出動件数が県内ワースト2位 平成19年の火災件数が66件で平成18年に比べ24件の増加 	
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 多重債務等消費者意識の向上 地震発生による市内全域にわたる液状化の危険性 台風等大雨による、荒川、中小河川等の水害等及び集中豪雨による都市型水害 住宅火災における逃げ遅れによる犠牲者を防止するため、消防法の改正が行われた 全国的にAEDが普及され、関心が高まっている 安全に対するニーズの高まり 	<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 事件、事故情報分析による集中した安心安全施策の実施 充実している相談窓口のアピール 相談部門での庁内、関係機関の連携強化 交通災害、火災共済の加入促進 各世代への多様な情報発信策のアピール 総合防災訓練、防災講演会等実施し、防災知識・防災対策の普及、意識啓発を図るとともに、各地域自防炎会のリーダーを育成する 災害時に対応できるように、防災設備について周知徹底を図る 消費期限の切れた備蓄品の入替作業を行い、災害時使用できるように維持・管理を行う 各自自治体及び民間と連携・協力し、防災体制の充実を図る 救急救命士のスキルアップや市民への応急手当等の知識及び技術の普及啓発 市民への防火・防災対策の啓発活動 自主防犯パトロールの推進、充実 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 組織横断的な情報配信体制の抜本的見直し メディアを利用したシティセールスの推進 市庁舎としての機能確保及び市民の安全確保を図る防災拠点として確立するため、市庁舎の建替あるいは耐震補強に関する検討が進んでいる 「災害に強いまちづくりワークショップ」を活用し、地域の迅速な避難行動や防災力の向上を図る 総合防災訓練、出前講座等を実施し、「自助・共助」の大切さを理解していただくとともに、広報、ホームページ等を活用し、意識啓発を図る 自主防災会と連携を図り、若い世代の防災訓練への参加を促す 住宅火災報知器の設置率の向上 救急車の適正利用を市民に促す
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 町会、自治会等協団体の高齢化 情報空間等(インターネット・振り込め詐欺)の犯罪増加 マナー・モラルの低下 高齢化社会の進行 救急搬送受け入れ拒否が社会問題となっている 主要国道(R17、R17BP、R298)の膨大な交通量 	<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服するための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政、市民、警察等の連携による市民意識向上施策の実施 学校教育プログラムでのマナー・モラルの向上策への協力、働きかけ ボランティア活動を通じた世代間交流の実現 大学誘致活動を通じた安全安心分野の新たな取り組み 災害に強いまちづくりの推進 医療機関との連携強化を促進 警察O.Bや県警協力団体とともに啓発強化、交通安全施設の検討、設置 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 転入住民を取り込める様な各種キャンペーンの実施 大学等との連携強化を目指す施策の策定 消防活動を迅速・的確に行えるよう消防施設等の充実 消防職員、消防団員の定数確保 指揮隊の編成
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 東洋経済新報「都市データバック2008」 日経グローバル「全国都市のサステナブル調査」(N90_2007.12.17) 埼玉県内犯罪発生率 平成19年(埼玉県警察本部) 市民満足度調査結果 平成19年度実施(戸田市) 道路交通センサス 一般交通量調査 平成17年度(国土交通省) 戸田市地域防災計画 災害に強いまちづくり推進ワークショップ 戸田市の消防年報 ・消防白書 埼玉県消防年報 ・消防現勢 		

分野名
産業と労働①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①活気ある産業のまちづくり ②賑わいのある産業のまちづくり ③生き生きと働く環境づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1>SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 事業所数が多く、昼夜間人口比率が高い 印刷製本業、物流業の集積がある 東京都に隣接し、交通の便が良い 市中退共制度がある 道路環境が整備され、都内より家賃等が安い 起業支援センターを設置している 		<ul style="list-style-type: none"> 住工混在しており、操業環境が悪化している 産業立地に相応しい大規模未利用地がない 製造業を中心とする事業所の減少(市外流出) 			
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止、省資源をはじめとする環境保護の推進が希求されている 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策		
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 製造業等の海外流出による産業空洞化 原油、原材料の高騰による世界的な景気悪化 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策		
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査 事業所統計 景況調査 					

分野名
産業と労働②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①活気ある産業のまちづくり ②賑わいのある産業のまちづくり ③生き生きと働く環境づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1>SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 人口当たりの大型小売店舗面積が広い 東京に隣接し交通の便が良い 道路環境が整備され、都内より家賃等が安い 		<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地が存在しない 地場産業、地元の名物や名産品がない 消費は都内に依存し、ベッドタウン化している 			
外部環境	機会(O)の増大 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 24時間型コンビニ社会となっている IT技術の着しい発展とインターネットの普及 消費者意識の多様化(少量多品種の生産) 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策		
	脅威(T)の減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化と人口減少社会 クレジットカード及びプリペイドカードの普及 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策		
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 市民意識調査 事業所統計 景況調査 					

分野名
産業と労働③

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①活気ある産業のまちづくり ②賑わいのある産業のまちづくり ③生き生きと働く環境づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1>SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 平均年齢が若く、子育て環境が良い 地域職業相談室がある 市独自の中途共制度がある 市内に事業所が多い シルバー人材センターがある 		<ul style="list-style-type: none"> 生活保護世帯が多い 製造業を中心として事業所が減少(市外流出) 住工混在し、企業の操業環境が悪化している 住民の入れ替わりが激しい 			
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 女性の社会進出が進展しつつある 職業能力修得機会・手段が増えている 学歴社会から実力社会への変化 	強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策		
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 団塊の世代が大量に定年退職を迎えている 少子高齢化と人口減少社会 臨時的雇用の増大、下流、格差社会の現出 都市化の進展による地域コミュニティの喪失 	強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策		
現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査 市民意識調査 事業所統計 労働市場ニュース 						

分野名
都市基盤と生活基盤①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①機能的な市街地づくり ②水辺と花や緑の美しいまちづくり ③快適な生活環境づくり

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

<h1 style="text-align: center;">SWOT分析シート</h1>		内部環境		
		強み(S)	弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 道路舗装率 県下1位 宅地開発等指導要綱、開発行為審査等、民間開発に係る指導を行っている 地権者組織によるまちづくり協議会が4カ所立ち上がっている 駅前に市街地再開発組合が設立されている 都心に近く交通の便も良い 都市マスタープランの進行管理を行っている(都市マスタープラン推進計画(事業進行管理編)) 都市まちづくり推進条例の制定推進(県下で少ない) 市民参加(都市マスタープラン推進のための市民会議) 活発な都市活動 道路台帳閲覧システムが稼働 道路施設の位置情報等の電子化 	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故発生率 県下ワースト9位 密集地域が存在する 都市基盤未整備地区が存在する 駅前地区に相応しい土地利用が進んでいない 区画整理地内に猛烈な勢いで、賃貸集合住宅が建設されている 都市マスタープランの市民の認知度が低い 地域との連携 市街地環境の維持 世界測地系に基づく公共座標の整備に時間を要す 	
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 住んでみたいまち、住み続けたいまちとしての市民意識の向上 環境やまちづくりへの関心の向上 全国的に道路環境意識が高まっている中、暮らしに快適な道路整備が望まれている 民間の宅地開発が依然活発である 区画整理地内の整備に伴い人口増加 住み良いまちとしての生活環境に根差したまちのルール化の必要性が高まっている 市民の住環境保全への関心が高い 市民からは窓口業務の対応について、利便性の向上が求められている 	<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 宅地開発等指導要綱、開発行為審査等により、民間開発に対し周辺環境に配慮した計画を指導・誘導していく 駅前に相応しい土地の有効活用と賑わいの創出を促進していく 首都圏に近いという利点を生かした都会的なイメージづくりにより、居住することの付加価値が高いと感じさせるようなソフトな面(地区計画など)でのまちづくりについて、行政側の誘導を推進する 今後は景観への配慮や歩行空間の確保等、生活環境重視の道路整備を進める 都市マスタープランの進行管理の継続 情報の公表(市ホームページ) 都市まちづくり推進条例の積極的な啓発活動の実施 今後は戸田市情報化推進計画に基づき、道路情報のみならず、各課の情報など全庁的にデータ流通の促進を図るとともに市民に対しても情報提供の推進を図る 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 住環境整備事業の推進 都市基盤整備事業の推進 駅前地区建築物等整備事業の推進 土地区画整理事業による整備のため、宅地に対する開発は新規開発が多い。そのため、地主の土地利用の意向によっては、戸建て住宅・分譲集合住宅といった人口定着の高い住環境になる可能性もある。そこで何らかのインセンティブを与え、より永住者のための住環境になるような開発志向に誘導していく必要がある あんしん歩行エリアを設定し、エリア内の交通安全対策について事業計画を策定する インターネット(市ホームページ)を活用した都市マスタープランの取組のPRの充実 新しいパンフレットの作成 マスコミへの情報提供 地域との連携の強化 事業の早期完成を目指すことにより、市民の利便性の向上を図る
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 無秩序な街並みの形成 高齢化が急速に進展している 行政の一方的な施策は住民理解が得られない 倉庫のまち戸田のイメージがある 住み良いまちとしての市民満足度の低下 住環境の悪化 市街地環境の悪化 	<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服するための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政主導のまちづくりから脱却し、市民主体のまちづくりを推進していく 民間宅地開発において緑地空間の確保や雨水の宅地内処理等を指導していく 耐震性に優れた再開発建築物の建築を支援していく イメージづくりと共に、土地区画整理事業区域内では、トータルな形で面整備が可能であるため、区域全体でのハードの面で、ほぼ計画された形が具現化されていくこととなる。そのため、公共施設についてもより付加価値の増加するような整備を図り、市のブランドイメージを高める 道路のバリアフリー化に配慮し、段差の解消等に努める 地区まちづくりの推進(都市まちづくり推進条例を活用した地区まちづくり協定・地区計画の推進) 閲覧システム等電子化された情報は、だれにでもわかりやすい操作により、提供できるようにする必要がある 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災や火災、水害から人命や財産を守るため、密集市街地の是正や都市基盤整備を推進していく 自然環境に配慮した住環境整備や都市基盤整備の推進 区画整理事業としてグレードの高い駅前広場の整備や遊歩道等、特色のある整備を行うことにより、区域の資産価値としての付加価値が増加するように進め、住む人が住み続けたいと思うような環境を整える 交通事故が頻繁に発生する地点を抽出し、警察署と連携した交通安全対策を図る 町会等への啓発活動の実施 モデル地区による地区まちづくりの取組 高度地区指定推進

現状の裏づけとなる資料	<ul style="list-style-type: none"> 市民満足度調査 新曽第一・第二土地区画整理事業区域内人口 戸田駅・北戸田駅乗降客数 土地区画整理事業区域内の使用収益開始面積 土地区画整理事業区域内における保留地面積 土地区画整理事業区域内における道路整備率 土地区画整理事業区域内における土地区画整理法第76条申請数 新曽第一・(第二土地区画整理事業)区域地区計画 新曽第一・第二土地区画整理事業事業計画 駅前広場電線地中化計画 	<ul style="list-style-type: none"> 新曽地区都市再生整備計画 新曽第一地区都市再生整備計画 GCPプラン21 道路現況調査(埼玉県調べ) 市町村別交通事故発生率(埼玉県調べ) 戸田都市マスタープラン 戸田都市マスタープラン推進計画(事業進行管理編)・短期事業評価 戸田市都市まちづくり推進条例
-------------	---	---

分野名
都市基盤と生活基盤②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①機能的な市街地づくり ②水辺と花や緑の美しいまちづくり ③快適な生活環境づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
				<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p>		<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p>	
外部環境	機 会 (O)	<ul style="list-style-type: none"> 環境に対する意識の向上 土地利用の変遷に伴って、旧来の水路や排水施設を統廃合し都市整備を進める必要がある 市内河川が清流ルネッサンスⅡに指定されたことにより、市として新たな取り組みや対策の実施が可能となる 住んでみたいまち、住み続けたいまちとしての市民意識の向上 環境やまちづくりへの関心の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい景観戦略の展開 (景観法に基づく景観計画の策定(決定)と都市景観条例の制定、三軒協定の推進(啓発活動)、積極的なPR(広報等)) 市民用に戸田市の公園パンフレットをつくる 「戸田ヶ原自然再生事業」の実施を図る 護岸工事に伴って親水施設を設置するとともに、クリーンエイドや出前講座を利用して『水のまち戸田』を内外にアピールする 	<ul style="list-style-type: none"> インターネット(ホームページ)を活用した取組みのPRの充実 市民との協働の景観事業の推進 現地調査による啓発活動 マスコミへの情報提供 個性ある公園づくり 市民ボランティアなど市民参加による自然再生の事業化 現在行っている上戸田川・さくら川の護岸工事や調整池等の整備を進め、より安全なまちづくりを目指す 荒川からの導水量の調整や、浄化施設の整備、水質調査の実施などによって、水辺を憩いの空間としてアピールする 			
	脅 威 (T)	<ul style="list-style-type: none"> 公園は一定の利用年齢が過ぎると、その利用価値が違う形で求められる 海水面の上昇や集中豪雨などの異常気象により、想定よりも強固な防水・治水対策が必要になっている 景観に配慮しない建築物等の建設 屋外広告物の氾濫 	<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服するための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市景観条例を活かした施策の推進 屋外広告物条例の制定 公園での活動や遊びを広く市民にアピールする 市民や企業など協働による「戸田ヶ原」の再生を行う 市民の親水意識を涵養すると同時に、水防に対する知識も広めていくことで、水防訓練などへの参加を促す 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民まちづくり塾などによる景観学習機会の提供 パンフレットによる情報提供の充実 景観に関する表彰制度の実施 市民が公園との係りを持ち愛着のある公園の維持 市民との協働による戸田ヶ原再生事業をモデル事業としてアピールする 辺島橋など特に浸水被害の懸念される地域を重点的に改修する 			
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市都市景観条例 埼玉県県土企画室ホームページ 16年景観の日パンフレット(国土交通省監修) 戸田市景観計画策定のためのアンケート調査 埼玉県の都市公園調書及び戸田市都市公園調べ 「戸田ヶ原自然再生事業」推進調査業務報告書 荒川水系菖蒲川・笹目川水環境改善緊急行動計画 参考資料 戸田市ハザードマップ 					

分野名
都市基盤と生活基盤③

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①機能的な市街地づくり ②水辺と花や緑の美しいまちづくり ③快適な生活環境づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 市内住宅の耐震化率が87%と高水準である 一月20㎡の下水道使用料金が全国一安価である 下水道普及率が85%と高い 浄水汚泥発生がない(水源が地下水・県水のため) 上水道普及率が100%(自己保有水源39%) コミュニティバスや市営自転車駐車が充実している 		<ul style="list-style-type: none"> 新管地区の下水道整備が遅い 下水道施設の老朽化 環境負荷(河川)低減が不十分である 塩素臭から見たおいしい水達成率25% 浄水施設耐震化率60.8% 管路の耐震化率39.7% 再生可能エネルギー利用率0% 			
外部環境	機会(O) ニーズの増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に建築物耐震改修の促進計画が進められている 住んでみたいまち、住み続けたいまちとしての市民意識の向上 より安全な水質へのニーズの高まり 環境への配慮 災害への関心の高まり 人口増による駅アクセスへの需要の高まり 		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策	
	脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 都市直下型大地震の可能性 老朽化住宅の居住者の高齢化 駅前地区の下水道未整備が環境に対するマイナスイメージの定着 地震、異常気象による水害、テロ等の脅威 倉庫地帯や幹線道路が多く貨物駐車需要が多い 		<ul style="list-style-type: none"> 効率的な施設管理による維持管理コストの削減 下水道処理地区内における未水洗化の解消 管渠等の築造コストの削減 水道現有施設、機能の維持 水源安定性の保持＝地下水源の保持 水道維持管理体制の更なる効率化 安価なコミュニティバスや駐輪場をアピールし都市イメージのアップとエコ移動への誘導 		<ul style="list-style-type: none"> 耐震改修補助のPR 新管地区の道路整備に合わせた下水道整備の拡大 老朽化等調査及び計画的な施設更新対策の実施 水道部と合併、組織の効率化を図る 水道配水水質管理の強化 水道耐震化計画の策定及び耐震化の計画的実施 水道に係る再生可能エネルギー利用検討や高効率設備への更新等環境に配慮した取組の実施 	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 全国優良都市ランキング(日経新聞) 埼玉の下水道2007(埼玉県都市整備部) 水道事業統計 水道事業ガイドライン(平成18年度、戸田市水道事業) 水道事業ガイドライン(埼玉県・給水人口規模(10万～25万人未満平均)) 					

分野名
参加と交流①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①人権尊重の社会づくり ②市民との協働のまちづくり ③男女共同参画の社会づくり ④情報化に対応した地域づくり ⑤交流を基盤とした地域づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立した人権政策セクションを設けないことにより、全庁的な風潮として、各課・各職員が人権感覚を持ち、責任を持って事業対応している ※単なる1セクションの所掌事務であるといった、間違った理解や弊害が発生しにくい 		<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独立した人権政策セクションを設けないことにより、対外的、PR的な面において弱い ※独立した組織を持つ事が対外的に市全体の取り組み姿勢を示すこととなる。 			
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> ・世界人権宣言60周年の節目を向かえ、21世紀は人権の世紀ともいわれている。種々の人権問題解決に向け、地方自治体の果たすべき役割と期待は増していく 		<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題への機運を有機的に広める啓発を行う ・啓発冊子、新聞等を活用し各セクションにおいて認識強化の機会を創出する ・各セクションの事務事業全ての根底に必要となる人権意識を磨く 		<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各セクションにおける直接的な人権に係る取り組みや一見関連性の無いように見える一般的な事務事業においてどのように人権問題に関連するかを有機的にまとめる体系図を作成する 	
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題を解決する方法の一つに、表面化させない、いわゆる臭い物に蓋をするという安易な傾向が現れてきている 		<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服するための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題解決に向け、自治体の立場と役割を再認識するための、講演会、勉強会を実施する 		<p style="text-align: center;">弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系化された人権問題への取り組みを、定期的な進行管理を行うことで形骸化、風化させない 	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援関係の事業・計画一覧(就学援助、育英資金、長性格支援等貸付け等事業、生活保護、在宅介護支援業務、高齢者等配食等のサービス支給業務、介護保険、保育園、児童館、生活相談等 他多数) ・行政組織図 ・行政組織規則 ・戸田市同和行政・同和教育に関する実施計画(平成20年度～24年度) ・戸田市同和行政基本計画 ・戸田市同和教育基本方針 					

分野名
参加と交流②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①人権尊重の社会づくり ②市民との協働のまちづくり ③男女共同参画の社会づくり ④情報化に対応した地域づくり ⑤交流を基盤とした地域づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威			
<h1 style="text-align: center;">SWOT分析シート</h1>				内部環境					
				強み(S)		弱み(W)			
		<ul style="list-style-type: none"> 情報公開制度、個人情報保護制度、パブリックコメント制度、行政文書目録検索システムが整備されている ボランティア、市民活動の拠点施設がある ボランティア、市民活動を受発信するサイトがある 市民参加の行事が多い 地域コミュニティの中心が町会主体になっている 		<ul style="list-style-type: none"> 市政情報室の利用者数の低下 ボランティア、市民活動の拠点施設の利用、及びサイトの利用が活発ではない NPO法人数対人口比率が近隣に比べ低い 町会加入率の低下 					
		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策					
外部環境	機会(O) ニーズの増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 国が、情報公開制度及び個人情報保護制度を法令化したことから、市民の行政に対する関心も高まり、市民と行政が情報を共有する必要性が求められている 多様で複雑な市民ニーズの増加 地方分権の推進により、市民間でも「地域は自分達でつくる」といった自治意識が高まっている 		<ul style="list-style-type: none"> 積極的に、情報公開制度・個人情報保護制度・パブリック・コメント制度をPRし、「開かれた行政」「市民との協働のまちづくり」のイメージをつくり上げる 市民参画型のワークショップや委員会の設置 拠点施設やサイト(ホームページ)を利用したボランティア・市民活動情報の受発信 行政でなくとも実施可能な公共サービスを民間へ委託する 団体の力を活かし、市民も地元へ貢献するために、コミュニティ協議会設立にむけての検討 		<ul style="list-style-type: none"> 市政情報室の在り方を分析し、「市民との情報共有」「情報発信基地」としての役割を充実させた場所となるよう強化する 拠点施設を中心とした魅力ある啓発イベント等、柔軟な企画運営の実施 職員を対象とした研修会の開催や庁内啓発情報紙の発行等 NPO育成策の検討 NPOに関して近隣自治体との連携 町会加入の促進を積極的にPR(リーフレット等の配布) 			
	脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護制度に対する過剰反応の1つとして、必要な名簿等の資料が作成できないなどの誤った認識がある 転出入者の増加によるコミュニティの希薄化 		<ul style="list-style-type: none"> 強みで脅威を克服するための政策 広報記事等で、個人情報保護制度に対する正しい知識を積極的に啓発することで、悪いイメージを払拭する 住民自治を念頭に置き、「公共を担うのは行政だけではない」という意識づけと「協働の必要性」をより多くの市民に周知できるよう、市民参画型の意思決定の場を積極的に設ける 		<ul style="list-style-type: none"> 弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策 制度構築、市政情報室の設置に満足せず、市民の欲する情報が整備されている環境を構築する NPO法人を設立し易い環境作り(設立時の支援を検討) NPOが継続して活動できるような財政基盤づくりとその支援 市民対象の協働についての講演会、説明会を開催する 			
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市情報公開条例 戸田市個人情報保護条例 戸田市民パブリック・コメント制度要綱 戸田市第3次総合振興計画後期基本計画 内閣府NPOポータルサイト 埼玉県NPO情報ステーションのサイト NPO法人数 町会加入率 戸田市民活動支援サイト(ボランティア・市民活動支援センターホームページ)登録数(個人・団体)、アクセス数 戸田市民活動推進基本方針 		<ul style="list-style-type: none"> 協働事業一覧 地域コミュニティ推進計画 市民アンケート調査 					

分野名
参加と交流③

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①人権尊重の社会づくり ②市民との協働のまちづくり ③男女共同参画の社会づくり
④情報化に対応した地域づくり ⑤交流を基盤とした地域づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 拠点施設(男女共同参画センター)があり、総合的な企画調整が可能である センターへの登録団体(73団体)が増加傾向にあり、地域コミュニティの推進の場となっている 登録団体主催の講座を開催し好評を得ている センターにおける各種委員会の委員が熱心であり、センターの運営に協力的である 		<ul style="list-style-type: none"> 3度の施設名称変換もあり、男女共同参画センターの認知度が低く、一部の市民にしか知られていない 過去の施設使用法等の変換もあり、男女共同参画専門の市民団体が育っておらず、正常なパートナーシップが図られていない 男女共同参画センター登録団体の高齢化が進んでいる 			
外部環境		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策			
		<ul style="list-style-type: none"> 拠点施設を生かした積極的な事業展開を図る 登録団体の会員の協力による各種情報の提供 各種講座の展開 		<ul style="list-style-type: none"> 積極的な事業を展開し、男女共同参画センターの名称を周知し、認知度を高めて行く 市民と行政の役割分担を明確にし、市民団体の活動を再構築しながら、正常なパートナーシップが図れるよう支援をしていく PR活動の強化として、「つばさ」や「広報」などの情報紙において、男女共同参画事業を取り上げていく 			
		<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会は21世紀の重要課題であるとの位置づけ 女性が再就職しやすい環境づくり 働く職場における男女平等の推進 		<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会の優先度は、他の施策と比べて高くない 			
		強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策			
		<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画社会の最重要課題である女性の進出を目指すために、女性人材リストの活用を推進し、利用率を高めるとともに、情報の提供を図る 		<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画の講座、事業を積極的にを行い、男女共同参画センターに足を運んでもらう 市民と行政の役割を再検討し、市民が行えることは移譲していくことにより、パートナーシップが生まれ、拠点施設が活かされ、認知度も上がっていく 埼玉県との連携を密にして、情報収集に努める 			
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市男女共同参画センター施設概要 戸田市男女共同参画に関する市民意識調査 					

分野名
参加と交流④

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①人権尊重の社会づくり ②市民との協働のまちづくり ③男女共同参画の社会づくり
④情報化に対応した地域づくり ⑤交流を基盤とした地域づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<p style="text-align: center;">SWOT分析シート</p>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
				<ul style="list-style-type: none"> 平成15年度に情報インフラの整備が完了し基盤ができています 情報化推進計画を策定し、平成20年度～平成22年度の3カ年計画(アクションプラン第3ステップ)を実施している 住民票等の自動交付機を3台設置など先進的な取組を行っている 市民向けインターネット閲覧/パソコンの設置 e-Todaスポット(無線LAN接続)サービスの実施 職員用パソコンの設置台数が多い(職員一人1台のパソコン化) 市内に3駅あり、通勤・通学等での利用客が多い 戸田市は全域、ブロードバンドのインフラが整備された、また地デジが視聴可能 物流の拠点や情報拠点が隣接している 		<ul style="list-style-type: none"> 情報化の進展に伴う情報セキュリティや情報リテラシの知識不足 情報化に係る調達経費や運用経費の増加 サーバ機器等の設置場所(情報センター)の安全対策不足(水害・不正侵入・通路側にガラス窓等) 情報技術の急速な展開への対応 本庁舎の老朽化 地域イントラネット基盤整備で導入した機器等の老朽化 市民の流入が多い 	
外部環境		機(○)の増加 役割の増大		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策	
		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市のHPを訪れる利用者の増加 電子申請・届出のサービス開始・普及 ネットワーク技術・情報化技術の急速な進展 ネットバンキングの一般化 ニーズ・ライフスタイルの多様化 インターネットの普及およびニーズの増加 地デジの普及 		<ul style="list-style-type: none"> 情報インフラを活用し市民の視点に立った満足度の高い市民サービスの提供と利用の拡充を行う 費用対効果を考慮し、社会環境の変化に対応した行政事務の情報化を進めていく 駅の利用者が多くSUICAでの電子マネーを利用できるサービスの検討 季節に合わせた、戸田市の良さをアピールできる新たなライブ映像の提供を検討 整備済みインフラや地デジを活用した住民との双方向通信を活用したサービスの検討 		<ul style="list-style-type: none"> 情報化を行うために必要となる、セキュリティに対する脅威の知識等の習得、職員のスキルの底上げを行うと共に、向上するための実践的な研修等や情報システム監査を行う 情報化を進める上で、適正な経費でのシステム導入や運用を行うために、システム調達支援事業を実施する 情報センターの安全対策を考慮し、データセンターへ移設を検討 運用管理のアウトソーシングを検討 新住民が市の情報入手しやすいホームページの提供 	
		脅(T)の減少 役割の縮小		強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策	
		<ul style="list-style-type: none"> インターネットやメール等によるウイルス感染の脅威 情報システムの高度化による情報流出の脅威 高齢者や障害者等、情報弱者に対しての住民サービスの格差の広がり 情報化によるネット犯罪や誹謗中傷等の利用者のモラルの欠如 パソコンのOSやソフト等のバージョンアップに伴う提供コンテンツの対応 		<ul style="list-style-type: none"> すでに構築している情報基盤の安全対策の強化を行う 情報化推進計画 第三ステップで計画している事業を推進し、適切な対応を進める 高齢者向け(操作しやすい、見やすい、わかりやすい)ホームページの提供や市民向けインターネットパソコン設置場所へ高齢者向けの情報機器の設置 動画での情報提供や、テレビ会議の技術を利用した、市民相談の検討 		<ul style="list-style-type: none"> インターネットやメール等を利用する際のモラルの向上 情報を提供している機器に適時な入れ替え、及び入れ替え機器の適切な機器構成 ウイルス対策等のセキュリティ対策を適宜行う 市民向けインターネットパソコンや市が提供しているホットスポットにおける有害サイト等のアクセス制限の強化 	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 戸田市情報化推進計画 アクションプラン第三ステップ 戸田市情報セキュリティポリシー 戸田市情報セキュリティポリシー 共通実施手順 市ホームページのアクセス数 					

分野名
参加と交流⑤

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①人権尊重の社会づくり ②市民との協働のまちづくり ③男女共同参画の社会づくり ④情報化に対応した地域づくり ⑤交流を基盤とした地域づくり

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1>SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 国内都市は2市町共に山間部にあるため、本市では経験できない自然を生かした交流を実施することができる 国外都市は近年、同国にて五輪が開催され知名度があると共に、歴史のあるアジア圏と、語学の推進が期待できる英語圏の2都市と締結している 		<ul style="list-style-type: none"> 国内都市との交流は、例年通りの各団体が交流を実施しており、地域への拡大が図られていない 国外都市との交流は、渡航に費用がかかると共に助成制度が無いため、民間交流は実施されていない 			
外部環境	機会(O) ニーズの増加 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> 市全体の国際化は21世紀の重要課題であるとの位置づけ 交流を軸とした、良好な地域コミュニティの形成 		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策	
	脅威(T) ニーズの減少 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> 国内・外共に以前より手軽に個人で旅行に行くことができるため、交流の場が減少している 		強みで脅威を克服するための政策		弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策	
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 友好交流事業数 					

分野名
行財政運営①

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①地方分権に対応できる市民中心の行政運営 ②健全で効率的な財政運営 ③広域行政の推進

Strength 強み		Weakness 弱み		Opportunity 機会		Threat 脅威	
<h1 style="text-align: center;">SWOT分析シート</h1>				内部環境			
				強み(S)		弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> 住基、戸籍、外国人等のシステムが既に構築されている 情報化ネットワークのインフラが整備され、電子申請を実施している 市内に3駅があり、市民の方の交通の起点となっている 部を基本としたマネジメントを実施している 行政評価を実施している 毎年実施計画を見直している 情報公開制度、個人情報保護制度、パブリックコメント制度、行政文書目録検索システムが整備されている 		<ul style="list-style-type: none"> 操作処理端末の能力不足が生じている 自動交付機でのトラブルへの対応 総合振興計画と部門計画間で施策の整合が取れていない部分がある 総合振興計画と財務会計との事業単位が不揃いであり、整合が取れない 行政評価が自己評価のみで客観性に欠ける 			
		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策			
外部環境		強みで機会を生かすための政策		弱みを強化して機会を逃さないための政策			
		<ul style="list-style-type: none"> 国が住民基本台帳カードや公的個人認証などを含め、IT化を推進している 他の自治体と比較し質の高い行政サービスを市民が望んでいる 情報公開請求など住民意識の変化 民間企業における経営理念、手法に学ぶNPMの考え方の浸透 市民参加により協働意識の高まり 		<ul style="list-style-type: none"> 次期の総合振興計画では、施策単位で成果指標を設定し、目標を明確にする 市民協働による総合振興計画の策定 積極的に、情報公開制度・個人情報保護制度・パブリック・コメント制度をPRし、「開かれた行政」「市民との協働のまちづくり」のイメージをつくり上げる 情報ネットワークの更なる強化 事務の現行システムを強化し、事務の省力化の推進 とだ市民カード利用者を増やす取組みとして、ホームページ等で自動交付機の利便性のPRの実施 			
		<ul style="list-style-type: none"> マンションの建設による人口増加 市民のライフスタイル、ニーズの多様化 個人情報保護制度に対する行き過ぎた意識の高まり 抜本的な財政改革等の国レベルの大規模な制度改革が進み、地方自治体の将来的な行財政フレームが読み切れない状況が生まれている 渉外及び外国人の多様な戸籍届出件数の増加 		<ul style="list-style-type: none"> 現状認識に基づく将来予測や財政シミュレーションを行い、計画の実効性を確保する 広報記事等で、個人情報保護制度に対する正しい知識を積極的に啓発することで、悪いイメージを払拭する 郵便局や自動交付機による申請者の利用窓口の分散化の促進 公共施設を利用した窓口の展開 各種メディアを利用した申請手続きのPRの実施 自動交付機の稼働時間の延長や自動交付機の活用強化 公的個人認証によるマルチペイメントシステムを利用した電子申請の推進の働きかけ 駅などの交通網を配慮した出張所の設置 			
現状の裏づけとなる資料		<ul style="list-style-type: none"> 行政評価報告書 第3次総合振興計画 人口統計、平均年齢の推移 証明発行月別集計表 市民カード発行数 自動交付機利用者数 大型マンション竣工予定一覧表 戸籍渉外届出件数一覧 住民基本台帳法、戸籍法 					

分野名
行財政運営②

第3次総合振興計画 戦略的な取組み
①地方分権に対応できる市民中心の行政運営 ②健全で効率的な財政運営 ③広域行政の推進

Strength 強み Weakness 弱み Opportunity 機会 Threat 脅威

<h1 style="text-align: center;">SWOT分析シート</h1>		内部環境		
		強み(S)	弱み(W)	
		<ul style="list-style-type: none"> ・市税収入が安定している 収税率県下11位 ・滞納処分(差押)の積極的な実施 ・イメージファインディングシステムの導入による事務の効率化 ・販売促進団体(戸田たばこ共進会)による協力的体制 ・宅地平均価格 県下3位 家屋平均価格 県下1位 ・企業撤退後の敷地跡地に大規模マンション建設がある ・財政力指数 全国12位 県下1位 ・実質公債費比率 全国5位 県下1位 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民健康保険税の収税率が低調 収税率県下36位 ・動産(自動車など)の差押実績がない ・未申告者・法人・償却資産の存在 ・新税基幹システムが未成熟である ・土地開発公社の人口一人当たり債務保証残高が県内で最も高い ・公共施設の老朽化 	
外部環境	機会(O) 役割の増大	<ul style="list-style-type: none"> ・地方税の徴収に関するノウハウを有する民間事業者の活用 ・人口増加による納税義務者の増加 ・国からの税源移譲による市税の増加 ・土地価格の下げ止まりの兆候 ・若年層の増加による行政ニーズの増加 	<p style="text-align: center;">強みで機会を生かすための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公会計改革による資産の有効活用 ・政策的経費の積極的活用 ・財政健全度の推進 ・収納方法の多様化による市民サービスの向上(マルチペイメントネットワーク・エルタックス・クレジットカードを活用した納税) ・コンビニエンスストアでの収納業務の拡大 ・換価性の高い債権(預金・給与・所得税還付金など)の差押えを一層強化する ・庁内応援により、申告受付体制の充実を図る ・広報等によるPRにより、納税義務者の申告に対する理解を深める ・事務手順の見直しにより、法人申告書処理の円滑化を図る ・販売促進団体を育成支援する ・課税客体の完全な把握 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して機会を逃さないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の建替え、整備により市の魅力を維持し、人口増加を維持 ・まちづくり土地開発基金の積極的な活用 ・「短期被保険者証」「資格証明証」を交付して、滞納者との接触機会を増やし、納付を促す(保険年金課と調整を要す) ・動産の差押を積極的に実施する ・差し押さえた財産をインターネット売却を通じて、換価処分(売却→現金化)する ・徴収事務の合理化・効率化のためのアウトソーシングの推進 ・課内応援態勢強化及び事務担当者のスキルアップにより、申告受付体制の充実を図る ・課税システムと申告受付を連動させ、申告受付事務の簡素化を図る ・課税システムと電子申告システムとの連携を検討 ・課税客体の情報収集の強化
	脅威(T) 役割の縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・モラルの低下と納税意識の欠如 ・フリーター、ニートなど非正規雇用や無業者の増加 ・企業の移転 ・たばこ販売本数の減少 ・経済情勢の悪化による税収の落ち込み ・県補助金の削減 ・高齢者の増加 ・市場金利の上昇、土地価格の下落 	<p style="text-align: center;">強みで脅威を克服するための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歳入の減に対応するための基金の積立 ・企業誘致などの長期的な自主財源の確保への取組 ・借入れ金利の決定に当たっては、競争性を採用する ・広報やホームページを通じて、税の理解と滞納処分(差押)の実績を公表し、納付納税の公平性を確保していることを明らかにする ・納税意識を啓発するための事業の実施(納税推進標語書道展及び税に関する標語・作文の募集) ・イメージファインディングシステムを活用し、納税義務者からの問い合わせに迅速に対応する ・広報・ダイレクトメールなどで、制度改正等について積極的にPRし、納税義務者の理解を深める ・販売促進団体の育成支援の結果、たばこ販売本数が増加する ・公平で適正な賦課の実施 	<p style="text-align: center;">弱みを強化して最悪の事態を招かないための政策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に土地開発公社の債務保証の解消に取組む ・公共施設の老朽化に対応する公共施設等整備基金の計画的活用 ・納付資力を喪失しているケースにおいて滞納処分の執行停止制度を積極的に活用する ・税務署・県税事務所と市の協力的体制の推進 ・事務担当者数の増及び事務担当者のスキルアップにより、課税誤りを極力なくす ・課税システムの改修を図り、税制改正に的確に対応するとともに、課税誤りを極力なくす。また、迅速・適正な処理を行う ・調査の強化により未申告者・法人・償却資産を減らし、公平な課税をする ・建築確認申請台帳の閲覧、登記済み通知等による新築家屋の把握
現状の裏づけとなる資料	<p>【戦略的な取組み】「新たな税財源の研究とその確保に取り組むこと」について 平成18年度まで、新税等の課題について、税制担当部内の研究会で検討を行ってまいりましたが、地域的な実情等により新たな課税客体を見いだせない結果となりました。また、政策的な課題を租税により解決する場合でも即効性に疑問が生じることや導入による財源確保が望めないため、今後は、税務課において実施済みの所得税から個人住民税への税源移譲に伴う納税義務者の理解と適正な賦課等により財源確保を図って行くことになっております。</p>			

戸田市まちづくり戦略会議

1. 委員および会議開催状況等

(1) 委員

所 属 部	職 名	氏 名	備 考
政策秘書室	室 長	熊木 保衛	
総務部	次 長	中村 美喜雄	副会長
財務部	次 長	本間 幹雄	
市民生活部	次 長	岡田 至正	
福祉部	次 長	曾我部 茂	
こども青少年部	次 長	鈴木 敏貞	
都市整備部	次 長	中村 龍一	
医療保健センター	次 長	須山 梅子	
水道部	次 長	野口 武	
消防本部	次 長	矢口 弘	
教育委員会	次 長	川村 順一	会 長

○事務局 . . . 政策秘書室

(2) 会議開催状況

平成20年度に4回にわたる会議を開催した。開催状況は以下のとおり。

会 議 名	第1回まちづくり戦略会議
開催日時	平成20年 5月22日(木) 15時30分から16時30分
開催場所	市役所5階 501会議室
会 議 名	第2回まちづくり戦略会議
開催日時	平成20年 7月30日(水) 9時10分から9時45分
開催場所	市役所4階 市長公室
会 議 名	第3回まちづくり戦略会議
開催日時	平成20年10月 1日(水) 13時30分から14時30分
開催場所	市役所4階 市長公室
会 議 名	第4回まちづくり戦略会議
開催日時	平成21年 3月18日(水) 13時30分から14時00分
開催場所	市役所4階 市長公室